

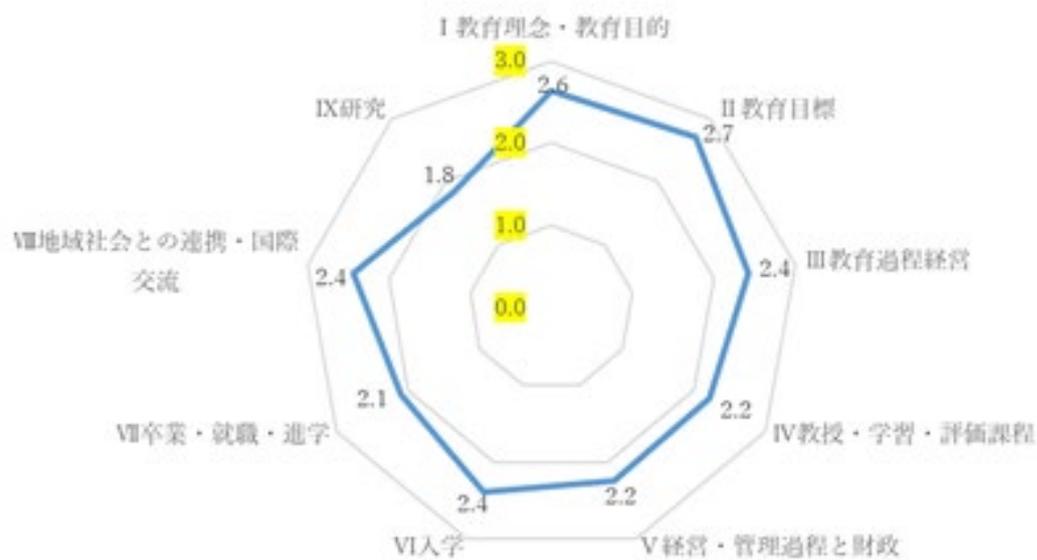
令和4年度 自己点検結果資料

2023年3月

| <p>総評：評価が一番低かったのは研究領域であった。新カリキュラムは「現状よりも更に特徴ある魅力的な学校づくりに勤しむこと、実習のみならず授業においてもプロジェクト学習などを用いて地域との連携を発展させること、現行の国際プログラムを、体験型のものから異文化適応能力をつける実践型に転換していくこと」という課題については、全て達成できるような内容の新カリキュラムが出来ている。今後はこのカリキュラムの実践と評価と改善が課題となる。</p> | |
|--|--|
| 項目 | 点検内容 |
| I 教育理念・目的 | <p>地域で活躍する看護師の育成については、卒業生の約8割が地域に継続的に就職しているという点で達成できている。カリキュラム改正後の卒業時の実践能力についての評価指標については現在も課題となっている。</p> |
| II 教育目標 | |
| III 教育課程経営 | <p>カリキュラム委員会の運営のもと、新カリキュラムにコンセプトに基づくカリキュラムを導入できたことは大きな成果となる。アクティブラーニングや反転授業を取り入れた新しい授業の取り組みも始まっており、主体性を育む教育方法の導入はできてきている。今後は継続と評価が課題となる。</p> |
| IV 教授・学習・評価課程 | |
| V 経営・管理課程 | <p>入学生の確保は継続してできているが、質の保障をするためには受験生を増やしていく必要がある。令和3年にトイレの改修と2階の空調の改修、令和4年に3階と1階の空調の改修工事が無事終了し、建物全体の整備は進んでいる。</p> |
| VI 入学 | <p>大学の増加、少子化はあるが、新卒受験生は増加している。出前授業や地域の高校との連携が効果を示していると考えられる。COVIDによる社会経済の低迷などから、社会人受験生は減少傾向にある。推薦入試枠を5人(2020年まで)→10人(2022年まで)→13人(2023年から)へと拡大しつつ、受験生の動向に対応しながら柔軟に適応する努力をしている。</p> |
| VII 卒業・就職・進学 | <p>就職状況は3市3町への就職を約7~8割で維持できており、早期離職者も学校に報告があった範囲では1~2名以内で収まっている。今後、正式に実態調査をする必要がある。卒業後の資格や進学の情報については改めて情報収集が必要である。</p> |
| VIII 地域社会・国際交流 | <p>地域住民や地域の専門家との連携プロジェクトが多くなってきており、以前より更に地域との連携が強化されてきている。新カリキュラムでも地域・在宅看護論となり、在宅専門看護師資格をもつ教員も入って強化できている領域である。国際に関しては、COVIDの影響で3年間アメリカ研修には行けなかったが、代替プログラムとして組織作りやプロジェクト学習を達成することはできており、またインターネットライブ授業の内容もアメリカ・オランダ・ラオスなど多国に渡り様々な文化の学習ができる環境となっている。</p> |
| IX 研究 | <p>令和4年 今回の自己評価ではこの項目の評価が一番低かった。しかし、新カリキュラムに向けて授業研究なども進んでおり、コンセプト学習についての研修会も沢山参加しているので、研</p> |

究活動の定義づけを看護研究と学会発表のみではなく、研究的思考をもって教育効果や業務の改善を図ることという意識づけが必要ではないかと考える。

大項目平均



3 : よく当てはまる 2 : 大体当てはまる 1 : 当てはまらない